

肛門外科（痔）

痔とは、肛門およびその周辺に起る病気の総称。

日本人の3人に1人は痔であるといわれている。

専門病院では、どのような痔であっても、

痛みが少なく、肛門機能を損なわない治療が可能だ。

排便の際の出血には大腸がんなどのリスクも考えられるので、

放置したり自己判断したりせず、早めの受診が大切だ。

❖大腸がんのリスクが潜むからこそ早期受診を

——肛門のしくみを教えてください。

肛門は、便やガスが無意識のうちに漏れないよう、括約筋という筋肉で閉じられています。その仕組みを補うために、肛門の出口から数センチ入ったところに「肛門

クッション」と呼ばれる柔らかな盛り上がり（血管の集まり）があり、括約筋が強い力で収縮しなく

ても、便などが漏れないようになっています。肛門クッションは、水道の蛇口に付いているゴム栓のような役割を果たしています。

排便は毎日の生活で当たり前に行われる行為ですが、そこに不具合が生じると、生活の質は著しく低下します。正しい排便習慣を身に付け、肛門に負担をかけない生活を心掛けるとともに、排便時に

違和感や異変があれば、迷わず大腸肛門専門病院を受診してほしいと思います。

——痔について教えてください。

おしりの病気の8割を占めます。痔の3大疾患といわれるものが痔核（いぼ痔）、裂肛（切れ痔）、痔瘻（あな痔）です。このうち最も多いのが痔核で、男女差はありません。裂肛は女性に多い傾向が

あります。

女性の妊娠・出産も痔が悪化する原因になります。お産の時の怒責（強くいきむこと）で痔核が悪化することが多く、授乳時は便秘になります。痔の3大疾患といわれるが

なりやすいので、排便の時に肛門が切れてしまう人も少なくありません。

——痔核の症状と治療法は？

排便時に強くいきむなど、肛門



札幌市中央区

医療法人藻友会
札幌いしやま病院／
札幌いしやまクリニック

TEL 011-551-2241

肛門外科の担当医／石山勇司、石山元太郎、西尾昭彦、秋月恵美、佐藤綾、鈴木崇史

秋月恵美 医師

Profile 札幌医科大学医学部卒業。日本大腸肛門病学会専門医・指導医・評議員。日本消化器外科学会専門医・指導医。日本外科学会専門医・指導医。日本消化器病学会専門医。日本内視鏡外科学会技術認定医。日本消化器がん外科治療認定医。検診マンモグラフィー読影認定医。

DATA

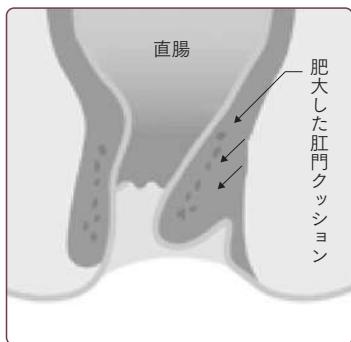


図1 痔核のイメージ

への負担が度重なると徐々に肛門クッショングが腫れて、本来あるべき位置からずれ落ちた状態になります。これが痔核です（図1）。肛門の外にできる外痔核、中にできる内痔核があります。

初期段階であれば薬や生活改善で症状は良くなりますが、悪化して痔核が脱出（肛門クッショングが肛門の外まで出てきた状態）するようになつた場合には、手術などの治療が必要です。かつては痔核を残らず切り取る手術が実施され、術後に肛門の機能が損なわれるケースもありましたが、現在は可能な限り肛門機能を温存する治療が行われています。切らずに治

すALTA注射（ジオン注射）療法と、外科手術があります。

—ALTA注射療法について教えてください。

注射療法は、ALTA（硫酸アルミニウム水和物・タンニン酸薬）という薬を痔核内に注射することで、痔に流れ込む血液の量を減らし、痔を硬くして粘膜に固定させる治療法です。メスを入れないため治療後の痛みが少なく、入院期間も短くて済みます。すべての痔核に効果があるわけではなく、この治療に適しているかどうかを厳密に判断しなければ、再発率が高いという欠点もあります。

—痔核の外科手術について教えてください。

痔核に流入している動脈を縛つて血流を遮断し、痔核を切除する結紮切除術が標準的な術式です。根治性が高い一方、術後の痛みや出血、肛門狭窄のリスクがあるため、当院では肛門形成術（ACL法）という術式を行っています。これは、ずり落ちた肛門

クッショングを括約筋から剥離し、あるべき位置に戻してから再固定する手術法です。肛門クッショングは本来必要な器官なので、切り取るのではなく「元の状態に戻す」という考え方の手術です。術後の痛みや出血が少なく、肛門機能に障害が出ることはほとんどありません。切り取らないため、見た目もほぼ元通りになります。

根治性と機能温存を両立させた肛門形成術は、日本大腸肛門病学会「肛門疾患診療ガイドライン」にも記載されており、近年普及が進んでいます。当院では合併症や後遺症のリスクを限りなく少なくしようと、2000年以前から肛門形成術に取り組み、現在まで多数の症例数を積み重ねています。

—裂肛について教えてください。

裂肛は、便秘気味の女性に多くみられ、『痛い痔』の代表格です。便が硬く太い場合や、下痢の時に肛門が傷んで発症します。繰り返すうちに組織が硬くなり、傷

が治りにくくなります。傷が深くなると肛門周辺の括約筋に達することもあります。一度裂肛になると排便時に肛門が痛むため、便意を我慢し、さらに便秘が悪化、裂肛も悪化するという悪循環が多くみられます。

裂肛の治療は、食事や薬による便の状態改善と、正しい排便、正しい肛門洗浄の指導など、保存療法が基本です。裂肛のタイプや症状にもよりますが、当院では保存療法の一つとして、肛門周辺の痛みを取る麻酔（仙骨硬膜外麻酔）をして、硬く狭くなつた括約筋を正常な状態になるまでマッサージして引き延ばす治療も行っています。マッサージは10秒程度で済みます。入院の必要はなく、翌日の排便から痛みはほとんどなくなります。

—裂肛について教えてください。

痔瘻は、肛門周囲に痔瘻管という細菌のトンネルができる、肛門疾患の中でも厄介な病気の一つです。肛門から約2センチ入った部

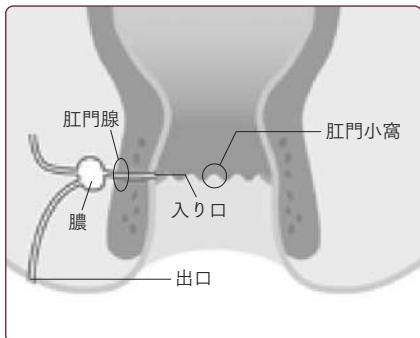


図2 痢瘡のイメージ

位には、肛門小窩というくぼみがあり、肛門腺という分泌組織につながっています。下痢を繰り返したり、体調を崩して抵抗力が弱まつたりすると、肛門小窩から入った便中の細菌が肛門腺で炎症を起こし、これが広がって膿のたまりを作ることがあります。これを肛門周囲膿瘍といいます。このような状態になると、肛門周囲が腫れて、熱をもって激しく痛みます。膿瘍が破れて膿が出ることもあります。放置すると、肛門小窩と膿の出口を結ぶトンネルが形成されます（図2）。この状態が痔瘡です。

痔瘡の予防に必要なことを教えてください。

何よりもトイレにいる時間を短くすることです。いきみすぎず、長く踏ん張らないことが大切です。5分座つても、それ以上便が出なければ、一度トイレを出ます。5分以上座ることをやめただけで、痔の予防や症状の軽快になります。

シャワートイレ（温水洗浄便座）

の間違った使い方が、おしりのトラブルを招いています。

痔瘡は、肛門から出る血液や残便感などによるもので、肛門の変形や筋肉を損傷すると、肛門の变形や機能低下につながる恐れがあります。手術の中で最も難しいとされます。深部の複雑な痔瘡は、複数回の手術が必要になることもあります。

痔の予防に必要なことを教えてください。

痔瘡の予防に必要なことを教えてください。

何よりもトイレにいる時間を短くすることです。いきみすぎず、長く踏ん張らないことが大切です。5分座つても、それ以上便が出なければ、一度トイレを出ます。5分以上座ることをやめただけで、痔の予防や症状の軽快になります。

最後に、肛門科を受診するコツを教えてください。

診察を受けることを恥ずかしいと思い、受診をためらう方は多いのではないかでしょう。肛門科を訪れたほとんどの患者さんが「こんなに楽になるなら、もっと早く受診しておけばよかった」とおっしゃいます。近年は、女性専用外来や女性医師が在籍している肛門

瘡です。痔瘡を繰り返しているうちに、トンネルが枝分かれし、アリの巣のように深く、複雑な痔瘡へと進行していく場合があります。

根本的に治すには、手術が必要です。手術の際、不用意に肛門の筋肉を損傷すると、肛門の変形や機能低下につながる恐れがあります。

痔の手術の中で最も難しいとされます。深部の複雑な痔瘡は、複数回の手術が必要になることもあります。

ブルを招いているケースも非常に多いです。そのほとんどは「洗い過ぎ」によって、皮膚を守るバリア機能を担っている皮脂、常在菌を洗い流してしまっていることが原因です。シャワートイレは①水圧を一番弱くする②水流を肛門（の中）に直接当たらない（入れない）③洗浄とともにデリケートな部位です。慣れるまでは物足りなさを感じるかも知れませんが、これでも十分に肛門周囲の清潔を保つことができます。

正しく、上手に使って、おしりのトラブルを防いでください。

痔瘡の予防に必要なことを教えてください。

何よりもトイレにいる時間を短くすることです。いきみすぎず、長く踏ん張らないことが大切です。5分座つても、それ以上便が出なければ、一度トイレを出ます。5分以上座ることをやめただけで、痔の予防や症状の軽快になります。

最後に、肛門科を受診するコツを教えてください。

診察を受けることを恥ずかしいと思い、受診をためらう方は多いのではないかでしょう。肛門科を訪れたほとんどの患者さんが「こんなに楽になるなら、もっと早く受診しておけばよかった」とおっしゃいます。近年は、女性専用外来や女性医師が在籍している肛門

科が増えているので、女性も気軽に受診してほしいと思います。

おしりの症状に自己判断は禁物です。肛門からの出血や残便感などの症状には、大腸がんなどの命にかかる重大な病気が隠れています。大腸がんになると、その数は増え続けていて、男女合せた罹患者数ではがん種別で第1位です。大腸がんは早期のうちにほぼ自覚症状がありませんが、最初の症状は排便に出ます。

血便が出ていたのをそのままにしているうちに大腸がんが進行し、手術で取り切れる時期を逃してしまったという例もあります。大腸がんは、早期に発見して内視鏡で治療すれば、体を傷つけることなく根治が期待できるがんです。いかに早く病気の存在に気付くかが重要です。

便秘や下痢、腹痛、便に血が混じる、便が出にくく、細いなど、排便状況・状態が変わった時は、放置せずに医師に相談してください。

（聞き手・加藤洋介）